

「ふるさと公園」のトンボ(2)

<トンボ科>



ショウジョウトンボ(オス)
全身燃えるように赤い。



(メス)
通常黄褐色で、オスとは別種のように。



コシアキトンボ(オス)
腰の部分が白く明いている。



(メス)
腰の黄色部分に黒い切れ込みがある。



ウスバキトンボ(オス)
翅が薄く、腹部に横縞が入る。
頭部が大きいので、ぶら下がるように止まる。
別名:精霊トンボ



シオヤトンボ(オス)

春に現れる。シオカラトンボより、ずんぐりしている。



(メス)



シオカラトンボ(オス)

夏場に多い。腹部の後方が黒い。



(交尾)

メスは別名、ムギワラトンボ。



オオシオカラトンボ(オス)

翅の付け根が黒い。

シオヤトンボ・シオカラトンボより体色が青い。

※3種とも、オスは成熟すると白い粉を吹く。メスは黄褐色と黒を基調とする。



(交尾)



ハラビロトンボ(交尾)



(メス) オスよりさらに腹部が広い。



(オス) 成熟するにつれて黄色⇒黒色⇒青色に変化する。



チョウトンボ(オス)



(メス)

幅広い金属光沢の翅をひらひらさせながら飛ぶ。

メスの方がやや翅幅は広い。腹部先端が尖っていればオスである。



ヨツボシトンボ(オス)



(メス)

翅に4つずつ黒い斑紋がある。黄金色に輝く希少種。オスメスの大きな違いはない。

<アカネ属>



ヒメアカネ(成熟中のオス)

小型の赤トンボ。成熟オスの額面は白色。



(オス)

(メス)

額面に小さな眉状斑が出る個体もある。



マユタテアカネ(オス)

額面の眉状紋が特徴。

(交尾)



(メス)

メスの翅端に褐色斑が出るものと出ないものがある。



リスアカネ(オス)

翅端に黒褐色の斑がある。胸側に2本の黒条があるが、前方のものは端が途切れる。



(メス)



ナツアカネ(オス)

全身が赤くなる。秋に多くなる。



(メス)

腹部背面が赤味を帯びる。



アキアカネ(連結)

腹部のみが赤くなる。

ナツアカネより遅く現れ、12月頃まで見られる。



(メス)

全身が茶褐色。



キトンボ(未成熟なメス)

翅基部から半分ほどが黄色い。夏に羽化して、水域から離れ晩秋に戻ってくる。



(オス)

<ヤンマ科>



クロスジギンヤンマ(産卵)

胸側にくっきり2本の黒条が入る。



(オス)

腹部第2節以降は青色と黒色が鮮やか。



ギンヤンマ(産卵)

最高速度60km/hで飛翔する。



カトリヤンマ(オス)

腹部第3節が強くとびれる。減少種。